

ハッ場ダム^{まつや}の目的のひとつ 「吾妻川の流量維持」が消失します

ハッ場ダムをつくって景観改善！？

2004年のハッ場ダム基本計画の変更で「吾妻川の流量維持」という新たな目的が加わりました^{〔注〕}。これは、ハッ場ダムから毎秒2.4m³を放流し、ダム直下の名勝・吾妻渓谷の景観を改善するというものですが、巨大ダムを建設して景観を改善すると言うのですから、ブラックユーモアのような話です。

吾妻川のダム予定地の流量がわずかであることが多いのは、東京電力の松谷発電所がダム予定地の^{まつや}上流で吾妻川の水を水利権の範囲で取りつくしているからです。



国の名勝・吾妻渓谷の鹿飛橋（しかとびばし）

ところが、東電・松谷発電所の水利権更新で自動的に流量が増えます！

しかし、最近では環境重視の観点から、発電用水の水利権更新時に河川維持流量の放流が義務づけられるようになりました。松谷発電所は30年ぶりに水利権の更新が行われます。国交省関東地方整備局水政課で審査中の東京電力の水利権許可申請



東京電力・松谷発電所

書を見ると、ダム予定地で毎秒2.4m³の流量を確保できるように河川維持流量を放流することが明記されています。

したがって、松谷発電所の水利権が更新されれば、ハッ場ダムなしで毎秒2.4m³以上の流量が確保されるようになり、ハッ場ダムの「吾妻川の流量維持」という目的は消失することになります。

その結果、下流都県の負担がさらに増えます！

ハッ場ダム建設事業費4600億円のうち97億円はこの目的のためのもので、国が7割、群馬県が3割を負担しています。この目的の消失に伴って宙に浮く97億円を国交省は関係都県（東京都、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬）及び北千葉広域水道企業団などの利水予定者に押し付ける可能性が高いと考えられます。群馬県以外は負担増となり、今後予想される地すべり対策等による事業費の再増額とともに、争点の一つになることは必至です。

ハッ場ダム建設事業費の
目的別負担額（億円）

利根川の洪水調節	2,413
水道・工業用水の開発	2,086
吾妻川の流量維持	97
群馬県発電	5
計	4,600



ハッ場ダム予定地上流にある長野原取水堰。吾妻川の水の大半は現在ここで取水され、ダム予定地下流の東京電力・松谷発電所に運ばれている。

〔注〕この時の基本計画の変更で群馬県水道は参画水量を減らしました。それに伴い、群馬県水道が負担することになっていた97億円の新たな負担先をつくり出すため、国交省は「吾妻川の流量維持」という目的を追加しました。それは同時に、ハッ場ダムに「吾妻渓谷の景観改善」というプラスイメージを施す目論みでもありました。しかし、早晩行われる松谷発電所の水利権更新により、ダム無しで必要流量が確保されることは国交省も予見していたはずで